

4/30~5/6 石川民医連の第8次震災支援

なんぶやすらぎの乙丸美音さんからの報告です

おはようございます。

余震も少なく、気がつかないくらいに小さいものばかりです。昨日はショートステイの支援日でした。20人定員で年齢、障害さまざまです。利用者さんとお話するにあたり、金沢弁は分からないかと思い、変に敬語を使うものだから、逆に相手は「???」な顔。こちらも肩も口も凝るので、開き直っていつものペースで金沢弁丸出しで話しました。そしたら、不思議なことにスルスルと会話が繋がり、なんぶやすらぎでお年寄りとお話してる感覚そのものでした。

津波被害の現場にも行ったのですが、あの無惨な光景を見た後だからこそ、笑ってお話しして下さる利用者さんの優しさと心の強さに涙が出ました。



支援4日目、5日目は夜勤でした。

現在、5/6のAM2時。この夜勤が明けたら宮城野の里を出発します。

長いようで短い支援期間。避難所のお年寄りや全国から集まった支援者とも、とても仲良くなり、別れるのが辛いです。

まるふく（避難所の通称）はいずれ無くなる場所。今の場所で、この顔ぶれで集まることはないのだと思うと、ひとつひとつの会話が、関わりが、とても感慨深いです。

いのだと思うと、ひとつひとつの会話が、関わりが、とても感慨深いです。

いつもとは違う形で介護することで、些細なことにも敏感に反応し、思いをこめてケアする、一期一会の気持ちを体感しています。

この夜勤中にも、地震が数回ありました。「もう地震はイヤだ」という認知症の方の呟きは心からの言葉だと思いました。

どうか、もう辛く悲しいことが起こりませんように、と祈るばかりです。